



第 36 号
編集・発行
信州大学附属図書館
繊維学部分館
平成12年7月27日

CONTENTS

さりげない毎日の風景	繊維学情報係長 杉本 詔守	(2)
使えるもの使えないもの - いろいろな辞書の話 (2) -	応用生物科学科 金勝 廉介	(3)
分館通信	図書館オリエンテーション・ 機能機械学科オムニバス授業支援実施報告	(10)
	利用者端末の現況と利用にあたってのお願い	(10)
	告知板	(11)
	分館日誌	(12)
編集後記		(12)

Library(電子版)はインターネットでも提供しています。
URLは <http://shinlis2.shinshu-u.ac.jp/online.html> です。

↑ 以前と URL が変わりました！

さりげない毎日の風景

繊維学情報係長 杉本 詔守

繊維学部分館へ来て4か月が過ぎました。当時は新学期が始まったばかりで静かでしたが、授業が始まるといつもどおりの賑やかなキャンパス風景が展開されています。

この4か月の間上田駅から繊維学部までの道のりを歩くに連れてその過程の移り変わりがありました。主線道路を離れた割合静かな道ですが通り沿いには昔ながらの土蔵を利用している会社や、格子戸に囲まれた屋根瓦の民家、樺や銀杏の大木に囲まれた重々しい神社などがあるのです。道のりも川があり、坂がありの変化があります。(けっこう勾配がきつい坂で、自転車の高校生などは途中から押して上がっていきます)。また川の流れる音は暑い季節の今の時期、一服の清涼感を与えてくれます。工学部の時も途中の用水路に流れる水音が涼しさと呼んでくれていました。いつか土蔵造りがある会社の道を歩いていると道端に赤黒い木の実が落ちていました。それは桑の実でした。桑の実を見るなんて実に何年いや何十年ぶりのことでしょうか。つい昔がなつかしくなりました。その会社がある通り沿いには何本かの桑の木が植えられています。桑の木にはそれほど多くはないのですがぽつぽつと実がついているのです。この時期繊維学部のキャンパスにも桑の実が落ちていました。今のその土蔵造りがある会社からはその桑の木がどのような関係にあるのかは知りませんが、昔は上田という地域からして蚕糸関係にたずさわっていたことの名残だろうと勝手に考えているのです。

またあるとき格子戸のある家の2階に明かりが灯いて下の格子にはお茶会を開けるらしい小さな張り紙がありました。この和風というか純日本的というか静寂な景観は歩いてわずか 10 数分後の上田駅では全く趣を異にした現代文化(?)の一端が華々しくそして賑やかに展開されているのです。駅前カルチャーは程度の差こそあれ長野や松本も同じ光景が見られるところではあるのですが。

このような歴史を思わせる建物は繊維学部までの道のりばかりではなく、繊維学部内にも健在です。図書館の両脇には専門学校時代からの講堂と宿泊施設があり、特に講堂は文化庁の指定文化財となっていることを示す説明書が銅板に記載されています。また正門の脇にある警務員室はおとぎの国でもあるかのような、トンガリ屋根の小さなかわいらしい建物です。この建物はその周りに茂っている大きな木々の枝葉に覆われていながらも、そこに建っているという存在感を懸命に主張しているような佇まいがまたおもしろい感じです。図書館の前にもカイヅカイブキという木が2本あります。この木は、一見原子力発電所などに見られる中程が幾分くびれた円筒形の巨大建造物を連想されるような形なのです。はじめからそのような形なのか、その形になるように手入れがされているのかは知りません。いずれにしても繊維学部図書館のシンボリック存在であることには間違いないようです。

街歩きの本などを読むと、本道はずれた路地のようなところにある坂とか川はその街の景観に与える重要なポイントとして表現されています。こういう観点から見るとこの道のりは街歩きの条件に十分に合っていると言えます。つい先頃明けた梅雨の時には、例の土蔵造りがある会社の別の土蔵壁に茂る蔦の葉が雨に打たれる時の緑が鮮やかでした。また格子戸のある家では、湿気を含んだ格子がなんとというかおちついた色合いをかもしていました。このような景観は長野にもまた松本にもそれぞれにあったことを思い出しています。それがたまたま通勤途上にこのようにしてあり、たまたまそれが私流としての条件に合っていたということになるのです。人それぞれです。

このように上田駅から繊維学部まで通勤途中に歩いて見ることができる建物、坂、川などについて話してみました。およそ図書館とは無関係なことを話してきました。ただ、恒常的な気ぜわしい時間の中であって一瞬このような思いを抱かせてくれる何気ない景観は貴重でもあり、反面充分に受け入れられないことに対するもどかしさも同様に持ち合わせてもいるのです。

これから厳しい暑さが続きます。この暑さの中の坂超えは背中かなりの汗をかかせてくれます。いずれにしてもこれからの夏を過ぎ秋そして冬となる頃、それぞれに趣のある景観をどのように見せてくれるのでしょうか。待つことにしましょう。

前回は、広辞苑で拾った言葉のうちから、長野県や上田市に関係の深い言葉、私たち繊維学部になじみの深い用語などを紹介しました。

ここでは引き続き、蚕糸科学用語から再開したいと思います。

VI. せめぐわ

昆虫やエビ・カニなどのたぐいの動物は節足動物と呼ばれます。彼らは私たちと違って体の中に骨格という構造を持ちません。丈夫な皮膚がすなわち体全体の形を決定する役割を担っていて、これを私たちは「外骨格」と呼んでいます。エビの殻を見れば、なるほどと納得していただけるでしょう。ところが困ったことに、成長して体が大きくなろうとしてもこの外骨格はそれほど自由に面積を広げることができません。

それでは？ というと、一生のうちの時々、古い皮膚の下に余裕のある新しい皮膚を作って成長の余地を確保するのです。この間は餌を食べず、じっとしています。それがあたかも眠っているようにみえるので、「就眠」と呼ばれます。新しい皮膚の準備ができた後、きゅうくつな古い皮膚を脱ぎ捨てるのが「脱皮」です。

たくさんのカイコを飼っていると、大多数の個体が就眠した中に一部まだ餌を食べ足りなくて就眠できないものがある時があります。これらをそのままにしておくと、先に就眠していた個体がやがて脱皮してしまうので、全体の生育経過のずれがますます広がってしまいます。そこで遅れているカイコにほんのわずかの餌を与えて大多数の就眠済みカイコの生育に追いつくようにしてやるのです。



就眼前(左)と就眠中(右)のカイコ。
左から右の状態に進むためには、もうほんのわずかの餌を食べる必要がある。

せめぐわ【責め桑】

《初版》 養蚕で、蚕の就眠の前に、十分に桑の葉を与えること。

《5版》 養蚕で、蚕の就眠の前に、十分に桑の葉を与えること。

辞書に書いてあることを必ずしも鵜呑みにしてはいけないことを示す一例です。この時期に桑を十分に与えてしまうと、その大部分は食べ残しになってしまい、先に就眠していた個体が起きてきた時にこれを食べってしまうの

です。つまり一時はせっかく縮めることができた経過の差が、また広がってしまうのです。

もちろんこの記述中の「十分に」という表現が、「就眠していない個体が就眠するために十分な」と言おうとしているなら話はわかります。その点、「蚕糸学用語辞典」⁽¹¹⁾の説明にはさすがにあやふやなところがありません(その英訳はいただけませんが)。

《蚕糸学用語辞典》 責め桑(せめぐわ) "Seme-guwa" feeding

眠った蚕の中に、まだ眠らない蚕がわずかいる場合、きざんだ桑を少し与える。

その時に与える桑のことをいう。

VII. トランスポゾン

一般に生物の持つ遺伝子は染色体上のそれぞれ決まった位置に乗っていて、それらは生物の一生の決められた時期に発現する(働く)ように制御されているものです。しかし中には染色体上の存在位置が決まっていなくて、ときどき染色体から離れて行ったり他の染色体の適当な場所に割り込んだりするような変わった行動をする遺伝因子があります。トウモロコシの研究をとおしてこの現象に気づき、以後たった一人で地道に研究を続けた B. マクリントック博士は 1983 年にノーベル生理学医学賞を受賞しました。女性受賞者としては史上 3 人目のことです⁽¹²⁾。



トランスポゾンの働きで種子の色がいろいろ異なって現れたトウモロコシ。

トランスポゾン【transposon】

《4版》 染色体から染色体へ自由に移動できる、複数の遺伝子から成る転移性遺伝要素のこと。自身の染色体だけでなく、DNA 組換えにより入った相手の染色体にも移動できる。宿主に新しい表現型(抗生物質耐性が有名)を与える遺伝子を持つものもある。プラスミドなどで発見され、ショウジョウバエなどにも見出される。

《5版》 染色体から染色体へ自由に移動できる、複数の遺伝子から成る転移性遺伝要素のこと。宿主に新しい表現型(薬剤耐性が有名)を与える遺伝子を持つ。細菌・ショウジョウバエなどに見出される。

これは何だか古い版(4版)の方が記述が親切なような気がします。

なお、最近はこの放浪する性質の遺伝子を、真核生物(高等生物)に有用な遺伝子を組み替えてやるための道具(ベクター)として活用するためにとくに注目されています。カイコでも近年ある種のトランスポゾンに託しているような遺伝子を組み込むことが成功し、いわゆる「トランスジェニック・カイコ」を作るという悲願が達成されまし

た。

専門的な話はこの位にして、次に私たちが知らず知らずに間違えて使っているかも知れない言葉をとりあげてみることにします。

VIII. 弱冠

「弱冠二十歳にしてすでに世間を驚かすような著作を ……」というように本来は、はたちの男の人をさす、一種の美称でありました。ところがどうも最近はこの言葉が余りにも簡単に使われています。

じゃっかん【弱冠】

《初版》 [礼記 曲礼「二十曰二弱冠一」]二十歳の異称。はたち。また、年の若いこと。

《5版》 ①(古代中国で男子二十歳を「弱」といい、元服して冠をかぶったことから)男子の二十歳の異称。また成年に達すること。懐風藻「年甫(はじめて)一、大政大臣に拝(め)され」。

万 十六「また一の女を称(い)ひて放髪(うない)はなり」といへり」②年の若いこと。

「一十七歳で七段の棋士」

まあ、②のように最近には単に年が若いことに使われるケースが増えているにしても、本来の意味を忘れないでいることも大切です。「弱冠 28 歳の年にはじめて ……」とか「大会の代表に初めて選ばれたのは弱冠 13 歳の時で ……」などとなると、もう多分に乱発気味で、何となく誤差の範囲から逸脱してしまったような感じすら致します。

IX. ジンクス

この言葉の意味を間違って理解している人はそれほど多いとは思いません。それでもたまに印刷物の中にさえ、この言葉をとんでもない意味で使っているの見かけることがあります。次の例文のどこがおかしいか、読者の皆さんならもちろんおわかりですね：

「彼は今朝も時計を右手に着けて家を出ることにした。まだ名前さえも知らないのだが、こうすることで公園の手前の小途であの心寄せる清楚なお嬢さんに会えるというジンクスをひそかに期待していた」。

ジンクス【jinx アメリカ】

《初版》 縁起の悪いもの。不吉なもの。けちのつくもの。

《5版》 縁起の悪いもの。また広く、因縁があるように思われる事柄。「一を破る」

このようにジンクスとは単に縁起をかつぐというのでなく、何か悪い結末につながることを言うのです。

Webster's New Collegiate Dictionary ⁽¹³⁾ は明確に：

one that brings bad luck. と述べています。

また解説をよく読めば見えてくるように、問題の事柄と結果の間に合理的な必然性がある場合にはジクスとは言いません。ですから：

「秋になっていくら雨が降っても実は何にも役に立たないのです。菌糸の成長する真夏の時期に十分な雨に恵まれることこそが茸の成長には大切です。今年は夏の間じゅうカラカラ陽気が続きましたが、こんな年は秋になっても山にマツタケがあまり生えて来ないというジクスが、完全に的中してしまいました。」

といった使い方はあまり適当ではありません。

X. いきざま

日本語の中で最も美しい言葉は？ というアンケートで、「ありがとう」が圧倒的に高く支持されたという記事をどこかで読んだことがあります。確かに「すみません」とか「どうも」よりも、素直に「ありがとう」と言えるのは自分でも気持ちのいいものだと思います。それでは反対に最もいやな言葉——これはもちろん人によって意見は異なるにしても、現実サンプルを出されればまず確実に追放票をもらうであろう言葉がこの「イキザマ」でしょう。

いきざま【生き様】

《4版》 いきようとするありさま。生き方。「すさまじい —」

《5版》 自分の過ごしてきたぶざまな生き方。転じて人の生き方。「すさまじい —」

この言葉のそもそもは「ざまあ見ろ」とか「ぶざまな負け方をして」の「ザマ」だと思います。従って少なくとも相手の人を尊敬した言い方では絶対ないはずです。

何年くらい前だったでしょうか？ ある退官予定の先生の送別会のことでした。学科主任のあいさつもいよいよ結びに近づいて来て：「……………このように〇〇先生の生き様は私達に深い感銘を与えてくれまして……………」。その時、会の司会を勤めていた私は一瞬ひやーと背筋が寒くなる気がした思い出があります。その主役の先生が、気を悪くでもされたら……………。

第4版で初めて採用されたその直後から、いくら百科・現代語辞典とはいえこのような言葉を見出し語にするという形で認知してしまうのはどんなものかと識者たちから批判を受けたものでした。第5版では少しばかり表現が工夫されて、あくまで正しい使い方ではないのですよとの配慮を示したのだらうと思われます。

いずれにしてもこんな言葉はなるべく使わないに越したことはないでしょう。

X I. こだわり

最近この「こだわり」という言葉があまりにも頻繁に使われるのが目に付きます。

たとえば、グルメブームとやらに便乗したあるレストランのご主人の談：「私どもとしては味と素材の新鮮さに徹底的にこだわって……………」何かおかしい使い方ですね？

こだわり

《初版》 こだわること

《2版～》 こだわること。拘泥。

それなら「こだわる」を見ると

こだわる

《初版》 ①さわる。さしさわる。さまたげとなる。膝栗毛 七「脇差の鍔が、横腹へ ーって痛えのだ」

②かかわる。かかりあう。拘泥する。「形式に ーる」③いささかのことに理窟をつけて故障を言い立てる。邪魔する。娥歌加留多「たつて御暇を願ひ給へども、郡司師高 ーって埒明けず」こだわること

《3,4 版》【①と③は初版と同じため、省略】

②気にしなくてもよいような些細なことにとられる。拘泥する。「形式に ーる」

こだわるという言葉は、元々は何かすんなりと行かないといった j 状況を表す言葉であつたらしいことがわかります。そんな中、例文のような形で最近よく使われるのは②の意味でだと思います。第3版以降の解説がわかりやすいですね。さて、ここでつい人ごとながら心配になってしまうのは、ひとり私だけでしょうか？ 本来なら最優先で大切にしたいはずの味の良さと素材の新鮮さを、「気にしなくてもよいような些細なこと」にしてしまってもいいのだろうか？ と。

その点広辞苑の編者は大層思いやりにあふれています。この手の使い方に少しでも肯定的な逃げ道をあたえるためにでしょうか、第5版では②の説明に少し融通を与えたような解説を③として新設しています。

《5版》(抜粋) ②些細なことにとられる。拘泥する。「形式に ーる」③些細な点にまで気を配る。思い入れする。「材料に ーったパン」

* * *

その他のおすすめ辞典

広辞苑の言葉探し遊びはこの位にして、私が使っているその他の頼りになる辞典のいくつかを紹介しておきたいと思います。ただ、辞典の類はあくまでそれを持つ本人にとって使いやすいことが一番です。波長が合う合わないは人それぞれで違いますから、これからの分はあくまで参考としてお読み下さい。

「角川 類語新辞典」⁽¹⁴⁾

私が研究室の学生さんと一緒に卒論の下書きを検討するときなどに特にごやっかいになることが多いのがこの類語新辞典です。何を言おうとしているかはわかるのだが、もっと正確に表現する言葉はないかな……とか、文章に同じ言葉があまりに頻繁に繰り返されてちょっとうるさい感じがするから、意味を変えずに目先を変えてくれるような表現はないものか……といったときに頼りになります。

欧米ではシソーラス (thesaurus) と言って、言葉を意味によって分類配列した類義語辞典が古くから活用されていたそうです。この 角川 類語新辞典 は日本語のシソーラスとして初めての本格的なものとのうたい文句で発売され、今でも広く支持されています。

「増補 字源」⁽¹⁵⁾

漢字のなりたち、漢字の持つ本来の意味などを調べるのに重宝な漢和辞典です。もちろん諸橋轍次「大漢和辞典」の徹底さにはとてもかないませんが、気軽に持ち運べる大きさでありながら、十分な情報量を内蔵しているところが便利に使える理由です。

大正 12 年からのロングセラーで、活字がいい加減すり減ってきて大層不明瞭な印刷ですが、それ故、紙面にえも言われぬ暖かみさえ感じられます。

"Webster's New Collegiate Dictionary"⁽¹³⁾

学生の時、生化学の分野ではたいへん著名な 今堀 和友 先生 の授業を履修する機会に恵まれました。その授業の前半の方で、たんぱく質のコンフォメーション (conformation) の変化という概念をコンフィグレーション (configuration) の違いと対比して教わり、ずいぶん強い印象を受けたものでした。有機化合物の立体構造の相違が、シグマ結合の自由回転だけで実現できる変化 (conformation) なのか、それとも一旦共有結合を切ってつなぎ換えなければ実現できないもの (configuration の違い) なのかということです。

ちょうどその頃、少し大型の英英辞典が欲しいと思っていた時だったので、数ある候補から選ぶ基準はこれら conformation / configuration を正しく区別して説明しているものにしよう決めました。丸善の辞書コーナーで時間をかけてあれこれ比べた結果選んだのがこの Webster でした。たしかにその他の理系専門用語に対してもわりあい理解ある内容となっています。

「講談社 カラー版 日本語大辞典」⁽¹⁶⁾

これはたいへん盛りだくさんの特長を備えた辞典で、上手に活用すればなかなか重宝なものです。守備範囲はもっぱら現代語ですが、巻末の「特集」の章にはいろいろな状況における敬語の使い方やのし袋の書き方等の記事があり、現代人の私達が最も苦手な世の中の慣習や常識を教えてください。また漢字にはすべてコンピュータ入力のための区点・JIS コードが付記されていて、この方面にも重宝に活用できるよう工夫されていて、全体としてはいわば「日常生活辞典」の性格も帯びています。

本体の辞書部分にはカラー写真を多用して、わかりにくい言葉も目で理解できるように工夫しています。たとえば「五徳(ごとく)」「七輪(しちりん)」とか「十能(じゅうのう)」など現代人にはもはやなじみの薄くなってしまったようなものでもその挿し絵を見れば、ああこれかと理解ができるわけです。

「国語大辞典」⁽¹⁷⁾

前回ちょっと話題にだしたように、広辞苑は言葉の用例がそれほど豊富ではありません。それに対してこの「日本語大辞典」は古典の一節を引用した用例を豊富に示しています。広辞苑でも手に負えないような言葉もこれで調べると大抵は解決します。

この辞典は最初（1972年）A4版の大判・全20巻の体裁で出版されました。何だか一巻々々がたいへん高価なものでありました。その後B5版の縮刷版全10巻（2巻を一冊に合本）の普及版として再出版されたのは1979年のことです。ちょうどこゝろ繊維学部に勤め始めたばかりの私は「この機会をおいて後にはない」と一大決心とともに、出入りの本屋さんに全巻の予約注文を出したのを覚えています。

これから紹介する話題は、古典の用例をという高潔な使用法とは程遠いのですが：

ある時研究室のお茶の時間のテーブルに到来物の和菓子がありました。学生諸君といただきながら、その包装紙に書いてある「原材料：和三盆、大手芒、寒天……」を見て、大手芒って一体何？という話になりました。読者の皆さんの中にはお菓子やさんのご息もおられるだろうし、お宅が調理の関係の仕事をしている人もいて、そのような人たちにはばかばかしい程簡単な問題でしょうが。

これを解決してくれたのは広辞苑でも日本語大辞典でもありませんでした。手芒とはその道の人たちの用語でいんげん豆のこと。和菓子の白餡の材料としては欠くことのできないものです。

* * *

さて、学生の皆さんへ：

この前後二回の小文が皆さんの卒業／学位論文を書く上で少しでも手助けになれば幸いです。なお、何不自由なく本に投資できるのは学生時代において他にないと思って下さい。買ってもその当座は読まずに埋もれてしまう本があるかもしれません。いわゆる「つん読」というやりかたです。それでも一向に構わないと思います。積んどいた本もいつかきっと役に立つ日が来ます。決して無駄にはならないのが書物なのです。

参 考 図 書

- 11) 日本蚕糸学会 蚕糸学用語辞典編纂委員会 (1979): 蚕糸学用語辞典, 日本蚕糸学会, 東京.
- 12) ノーベル賞人名事典編集委員会 編 (1994): 「ノーベル賞受賞者業績事典」, 日外アソシエーツ, 東京.
- 13) Webster's New Collegiate Dictionary, G & C Merriam, Massachusetts, U.S.A.
- 14) 大野 晋・浜西 正人 (1981): 「角川 類語新辞典」, 角川書店, 東京.
- 15) 簡野 道明 (1955): 「増補 字源」, 角川書店, 東京.
- 16) 梅棹 忠夫 ら (1989): 講談社 カラー版 日本語大辞典, 講談社, 東京.
- 17) 日本大辞典刊行会 編 (1979 - 1981): 日本国語大辞典(全 10 巻), 小学館, 東京.

♪♪♪ 分館通信 ♪♪♪

図書館オリエンテーション・機能機械学科オムニバス授業支援実施報告

繊維学部では毎年、年度初めに2年生・編入生を対象としたもの、また講座を対象としたオリエンテーションを実施しております。

内容

- * 図書・雑誌の探し方
- * 論文の探し方
- * 図書館で受けられるサービスについて
- * OPAC Swetscan他検索方法
- * 館内案内

今年は2年生・編入生の参加はありませんでした。是非参加していただき、今後の学生生活において大いに活用して欲しい気持ちでいっぱいでしたので、とても残念でした。

実際、利用の仕方でわからないことがあっても図書館員に質問してくる方が少ないように思われるので、このような機会に是非参加してみてください。ちょっと知っているだけでとても便利で役に立つことがたくさんあります。年度始めだけではなく、いつでもオリエンテーションを行いますので、参加希望の方は図書館までお気軽にご相談ください。

また、今年は機能機械学科のオムニバス形式授業支援をしました。初めてということもあり、また大人数でしたので、館内での説明は充分でなかった点もありましたが、受講された方はこれを機に大いに利用していただきたいと思います。

利用者端末の現状と利用にあたってのお願い

現在、端末の前に **利用にあたってのお願い** の掲示を出しておりますが、利用者端末は学術情報検索のためのものです。OPAC、CD-ROM 検索、Swetscan 等を使って研究に役立てていただくためのものです。このように掲示しているにも関わらず最近になって非常識な利用の仕方(長時間独占、メール、あきらかに学術情報検索とは無縁のサイトへの接続)が目立ちます。学生としてのモラルを持ち恥ずかしくない利用をお願いしたいと思います。

実際当館には5台の利用者端末があります。そのうち3台はなんらかの理由によって、使用不可能になってしまい、現在は2台のみが利用可能となっております。普通に使用していればこのような故障はありません。このような現状も理解していただき、併せて常識ある利用をお願いします。

告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。

次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板や繊維学部分館ホームページ(<http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp>)でご案内していますので、そちらをご覧ください。

⇒ 夏季休業中の特別貸出について

夏季休業に伴い、下記の通り貸出期間を延長します。

貸出開始日	大学院生	平成12年7月 5日(水)	10冊以内
	学部4年生		8冊以内
	学部2・3年生	平成12年7月22日(土)	3冊以内
	研究生・聴講生		
返却期限日	平成12年10月 2日(月)		

※ 返却期限日は厳守してください。

⇒ 夜間開館の休止について

8月7日(月)～9月30日(土)の夏季休業中は、開館時間が短縮されます。

休業中	8:30a.m.～ <u>5:00p.m.</u>
-----	---------------------------

業務内容は通常通り行います。

2階閲覧室には冷房が入っていますのでどうぞご利用ください。

⇒ 学術雑誌の製本について

8月3日(木)に、1998年度国内雑誌と1999年外国雑誌一部を製本のため外注に出します。製本雑誌リストは、図書館入口の掲示板、繊維学部分館ホームページでお知らせしますので、そちらをご覧ください。

8月2日(水)までは準備のため1階事務室横の作業室においてあります。必要な際はカウンターにお申し出ください。

なお、納品予定は9月中旬になります(納品日は多少前後することがあります)。

作業期間中、ご迷惑をお掛けしますがご協力くださいますようお願いいたします。

4/14	館長・分館長懇談会	
4/19	第1回図書委員会	
5/17	レファレンス担当者打合わせ	出席者－鳴澤
5/26	第1回図書館運営委員会 (SUNS)	出席者－平井分館長 松瀬委員
	収書委員会 (SUNS)	出席者－松瀬委員
6/7	情報リテラシー教育支援実習	出席者－宮下
6/13	第2回図書委員会	
6/21	情報リテラシー教育支援実習	出席者－宮下
6/26	館長・分館長懇談会	

編集後記

梅雨明け宣言も出され、毎日暑い日が続いています。夕方にひと雨降ってくれればだいぶ涼しくなるのですけれど…。夏バテなどしていませんか？

今回は、この4月に繊維学部分館に就任された杉本係長と、前号に引き続き、金勝先生より原稿を頂きました。大変お忙しい中ありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。どちらもとても興味深い内容となっていますのでぜひご覧ください。

次号は10月の発行を予定しています。利用者の皆さんの声も Library に掲載したいと思いますので、ご意見・書評など何でもお寄せ下さい。係員に直接、または E-mail での寄稿もお待ちしています。

E-mail アドレスは、jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp です。